

# うるわし通信



一般社団法人  
うるわしの桜井をつくる会  
〒633-0091 奈良県桜井市  
桜井1259エルトさくら内  
TEL&FAX:0744-43-7773  
URL: <http://lets.some.jp>  
E-mail: [lets@some.jp](mailto:lets@some.jp)

令和5年01月

## 新年のご挨拶

新しい年を皆様方ご健勝にてお迎えのことと存じます。こうして穏やかな新春を美しいまほろばの地で過ごせることがどんなに得難い幸せなことであるのか、あらためて認識させられる新年となりました。

昨年2月24日世界の状況は一変し、人々は不安の淵に投げ込まれ、エネルギーや食料価格が高騰、インフレになり、加えて3年も長引くコロナ禍も収束せず、サプライチェーンが乱れて半導体が不足、製品の納入おくれが常態化しています。戦後70年余りの平和維持の秩序はあっけなく崩壊し、世界はまったく違う世界に変容しました。気がついてみれば日本はミサイルが立ち並ぶ専制国家に囲まれ、万一の日本有事の対応も考えざるを得ない状況になりました。

一方で地球温暖化による気候変動はますます凶暴さを増しています。令和5年2023年は決して平穏に推移するとは思えません。波乱と不安定の時代に船出する覚悟が求められる年になりそうです。国家像の大転換のなか、答えのない混迷の時代にもっとも大事なものは個人それぞれの人間力だと思います。どんな困難にもたじろがず自信と誇りをもって荒波を乗り切ってゆきたいと思います。神なびの里、桜井地域は日本人のこころの原風景、民族の誇りと自信が生まれるふるさとであります。



考古学と歴史学の研究によって、3世紀半ばの纏向遺跡が第十代崇神天皇の年代とシームレスにつながる可能性が出てきました。まさに神話が現実となる国のはじまりの地域であります。そのことを住民自らが自覚し、それにふさわしいまちづくりをして日本全国に発信すべきだと思います。

くにのはじまりの地にふさわしいまちにするためには課題山積です。全国的に見れば垂涎の場所や懸命に努力しておられる地域もありますが、率直に言って恥ずかしいような場所もあります。磨かざれば玉も石に見えます。課題ひとつづつでも出来ることから知恵を出して取り組んで参りたいと思います。

高い山も一歩から、大海の水も一滴からです。どんな時代にも耐えられるよう、誰ひとり取り残さない助け合いと連帯を大事にしながら、今年を巣ごもり期から復活再生を目指す年にしたいと年頭にあたり念願する次第です。

一般社団法人うるわしの桜井をつくる会理事長：堀井 良殷

## 大和信用金庫の活動紹介

当金庫は昭和23年に桜井町信用組合として設立され、今年で創立74年目を迎えています。地元商工業の発展に尽力し、地域とともに歩んできましたが、昨今高まる地球環境保護への意識から、金融機関においてもCSR（企業の社会的責任）活動が注目され、当金庫では平成16年にCSR委員会を発足させ、金融機関として果たすべき社会的責任としての活動を進めてきました。

そんな中、奈良盆地を流域とする大和川の水質が全国ワーストクラスであることを知り、水質改善度合いにより定期預金の金利が上がるという「大和川定期預金」を平成18年に発売したところ、各方面から注目を集め、環境各賞を受賞した他、マスコミでも多く採り上げられることとなりました。この定期預金の効果もあってか、大和川の水質は着実に改善が図れ、現在は「大和川定期預金」もその役目を終えています。

その後も、当金庫での環境維持活動は継続されており、金庫職員と金庫自体からの出資による「大和川基金」による子供たちへの環境教育を行っています。

今年も11月3日（祝）に小学生やその保護者等約40人が参加し、大和川の自然環境維持の大切さを学んでもらう事を狙いとして「ふるさと大和川源流体験ツアー」を大和川上流（桜井市三谷）で開催しました。山野草の里づくりの会・奈良スツブ温暖化の会・さくらい菜の花プロジェクトの各NPO法人の協力を頂き、里山探検や源流水質調査を始め、水生昆虫の観察を行い、タガメやミズカマキリなどの生物をじかに触り、自然の大切さを体感してもらいました。

「大和川基金」からは、毎年「奈良県地域貢献サポート基金」に対して50万円の寄付をを行い、大和川水系の水環境改善事業を支援しています。

環境問題のみならず、地元のまちづくり活動にも積極的に参加しており、「桜井市本町通・周辺まちづくり協議会」や、桜井本町通りのイベントである「ソラほんまちフェスタ」での出店協力も行っています。CSR委員会は、現在やましんSDGs推進委員会と名称を改めており、今後も様々な方面から持続可能な社会作りを目指して、地域への貢献を果たして参ります。

一般社団法人うるわしの桜井をつくる会理事：新 元秀(大和信用金庫)



## 地域歴史学習会の報告と反省

活動当日は 降雨が心配されていましたが、朝8時ごろには雨も上がっていて、担当の先生からは「外での実施」の連絡があり、その思いで学校へ行きましたが、その途端に激しい雨が降り出し、急遽教室での活動ということになりました。自分としては、こうゆうこともあろうかと事前に教室内での活動のシュミレーションはしていましたが、いざ児童たちの前に立ってみると、頭の中は「超」が付くほどの大パニックになり、事前に歴史にも目を通していたはずなのに、余裕が全くなく、こんなはずではなかったと後悔しても手遅れでした。

学習内容は、「仏教伝来の地」「河川敷の壁画」「磯城嶋公園」です。そこで、学習会を通じて私の感じた事（反省点）を挙げてみたいと思います。

- ①自分の知識を披露するような話し方はしていないか？
- ②児童の立場に立って話が出来ていたか？
- ③自分の声は後ろの児童まで聞こえているかの確認はできたか？
- ④大人に話すよりも、どのように話しをすれば児童に理解してもらえるのか？

大人に話していた単語(名詞)は児童に通用しない、使おうとする語句も事前に先生に確認する必要がある。例えば「仏教公伝」の「公伝」「宮」「遺跡」「古墳」も当たり前にも話しても「それ何？」ということになる。また「厩戸皇子」は「聖徳太子」で「乙巳の変」は「大化の改新」で教えるようになっているとのこと。

ヒントとして、先生から「児童たちはクイズが好きですから」と聞いていましたので、下記のようなクイズを用意し、児童たちに極力考えてもらうためにしました。

- ①日本全国47都道府県で、日本の国宝を最も多く管理しているベスト3は？
  - ②随や百済などから大使が来て食料や文化が日本に入ってきて来ました、その時大和川を遡って金屋の地まで船を運航していたがその方法は？
  - ③この地に「古代の宮」があったと伝わるが「宮」が造営された条件は？
- \*また金屋の河川敷の壁画からクイズとして
- ①外国の大使が日本へ来た時に持ち込んだ食品は？
  - ②寺院に建っている「塔」は何のために建てられたか？
  - ③この当時の日本の人口は、おおよそ何人くらいであったか？

などを話題・話しの接ぎ穂として提供し45分の活動が終わった後、ドッと冷や汗が出てきました。児童たちには少なからず自分の話のいたらなさにも申し訳ない気持ちでいっぱいですが、いずれにしても「最高の経験」をさせてもらいました、次に機会があれば今回の経験を活かされればと思います。

桜井市観光ボランティアガイドの会：中西剛次



仏教伝来の地



磯城嶋金刺宮伝承地

## 令和4年度第1回 うるわしの桜井をつくる会役員会

12月4日(日)の午後から桜井市高家にオープンした「なら食と農の魅力創造国際大学校附属セミナーハウス」にて役員会が開催されました。コロナ禍で延び延びになっていましたので、久しぶりの対面会議です。前期の事業報告は全て承認され、「桜井市観光基本計画学習」と「新春交流昼食会」について議論されました。基本計画学習会については、観光関連諸団体との計画の推進に向けた情報交換の場づくりの必要性が取り上げられ、学習会の継続的な開催をすることになりました。そのことを受け交流会の代わりに、うるわしの桜井をつくる会が中核となり、市内で活動しているNPOやボランティア団体による仮称「桜井市観光サミット」を計画することになりました。



詳細については、後日紙面にて案内させていただきます。

## 高瀬氏が桜井市表彰を受賞



11月3日(文化の日)桜井市役所において第51回桜井市表彰式が執り行われ、うるわしの桜井をつくる会監事の高瀬安男氏が、長年にわたり、地域歴史学習の取り組みを通じ、市内小中学生の健全育成に貢献した功により、市長から表彰状が授与されました。

これからも桜井市の発展のため、ご尽力いただきたいと思います。おめでとうございます。

### 【編集後記】

グローバル。Global(地球的規模の)+Local(地域的な)の造語で、地球規模の視点で考え、地域性を考慮しながら行動することを意味する。編集後記では何回か使わせて頂いた言葉である。

今回は、その視点で環境課題への取り組みと、地域の歴史を世代を継いで伝える取り組みを紹介頂いた。コロナ禍も4年目を迎え、Withコロナの下で、地域のつながりをどう復興・再生していくか。

今年ほうさぎ年。ウサギは、冬に失われた生命が復活し草木が芽吹き花々が咲く再生のシンボルでもあるらしい。そのことを願う2023年である。

(編集子 楠木)

うるわし通信発行人  
ひがし俊克  
TEL:090-3652-8104